

エンジョイ・〇〇

こう ちょう み むら み のぶ
校 長 三 村 美 延

今年の高校野球もたいへん盛り上がりました。大きな声や楽器の音を出して応援することが可能となり、いっそうそう感じたのかもかもしれません。注目される数々の高校同士の対戦は見応えがありました。トーナメント戦なので毎回は真剣試合。汗まみれになって力いっぱい白球を追う選手の姿にこれまでの努力を想像し、私は毎年、夢中になってテレビ前で応援してしまいます。

今年は、慶應義塾高等学校（以下、慶應高校）が107年ぶりに優勝したことも大きな話題となりました。主将の^{おおむらそらと}大村昊澄さんは優勝後のインタビューで次のように語っています。「(優勝したことによって)『野球は楽しい』という**本質**を表現できたと思います。心の底から野球を楽しんでいる原動力から出たプレーや行動が、最後一番強いのだと証明したかった。」

慶應高校野球部のWebページを見ると「^{エンジョイ} Enjoy Baseball（スポーツは明るいもの、楽しいもの）」という言葉が部訓として掲げています。これは、昭和初期に監督を務めた^{こしもとひさし}腰本寿さんが提唱したもので、当時の日本の野球が辛いことに耐えて勝利を勝ち取るという修行のようなものだったので、スポーツ本来の明るい発想が必要だと考えたからだそうです。この言葉が、1世紀を経た今も部訓として受け継がれていることに驚きます。「『野球は楽しい』という本質は不易である」ということでしょうか。

コロナ禍の3年間で教育現場は大きく変わりました。一人1台端末が取り入れられ、オンライン授業やデジタル教材等の情報化が一気に進みました。長期にわたる臨時休業の経験から、子どもの安全を守るための役割や対面で得る学びの重要性を認識しました。教職員の働き方改革も進められています。

今年に入り、5月の新型コロナウイルス感染症の法的位置付けの変更を受け、学校行事も復活しつつあります。ただし、単純に元に戻すわけではなく、それぞれの本来の目的を十分に検討する機会としています。学ぶということの本質は何か。教えるということの本質は何か。働くということの本質は何か。

流行（今日的課題の解決）を取り入れることも必要ですが、不易（本質）をおさえることが大切です。

慶應高校の現監督 ^{もりぼやしたかひこ} 森林貴彦さんは、次のように述べています。「今のレベルより少しでも上達して高いレベルの野球を楽しむ気概を持つこと、そのための努力や工夫を怠らないこと、部員一人一人が独立して自分から野球に積極的に取り組むこと、このようなことの積み重ねが、Enjoy Baseball を体現することに他ならないと考えています。」（野球部 Web ページ）

「^{エンジョイする}楽しむ」ためには受け身ではなく、それなりの努力や工夫、そしてそれを継続する強い心が必要なようです。今日から2学期が始まります。あなたは何をエンジョイしますか。

(令和5年9月)